



3年ぶりに桜理祭が復活しました！



工 化 時 報

第39号



Since 1938

MAC
 DEPARTMENT OF
 MATERIALS
 AND
 APPLIED
 CHEMISTRY

工化会会長あいさつ

工化会会長 太田延幸

(昭和 54 年卒)



新型コロナウイルスが収まらない状況が続き、令和 4 年末からインフルエンザも同時に流行している中、工化会会員の皆様はお元気に過ごされていますでしょうか。インフルエンザは季節性もあり時期が来れば落ち着くと思われませんが、新型コロナウイルスはしばらくの間上手にお付き合いしていかざるを得ない状況かと思われまます。会員の皆様も感染しないよう十分にご注意いただき毎日をお過ごしください。

工化会は、3 年連続でコロナの影響を受け、会員への感染を考慮して総会を中止させていただきました。令和 4 年度は、前年と同様にインターネットを用いたハイブリッドの役員会を開催し、総会に代わって種々の決議を行い運営させて頂いております。総会やホームカミングデーで、旧友や先生方などと交流を深める良い機会を楽しみにされている会員方々には、誠に申し訳ありませんでした。令和 5 年度は総会だけでも開催したいと準備を進めていただいております。開催できましたら、是非ともご出席賜ればと思います。

令和 4 年度は、役員会でご指摘を頂いておりました、工化会のホームページを立ち上げていただきました(9、10 ページ参照)。会員の皆様には既にご連絡させていただいておりますが、今までホームページがなかったのが不思議なくらいです。まだ、ご覧になったことがない方は是非ともご覧いただければと思います。ホームページでは、工化会の活動状況や会員各位から連絡することが出来るようになっています。最近の活動の一つとして、卒業生による「OB による在学生に向けた就活セミナー」を令和 5 年 1 月に開催しました。卒業生四人の方々を講師に迎え、就活活動に入る 3 年生および修士 1 年生向けに、就活の経験談や就職課の立場でのアドバイスなど頂いた後、学生の皆さんから先輩達に直接質問をしました。疑問や悩みなどを解消して、今後の就職活動に役立てていただけたと思います。年始の忙しい中を対応して頂きました四人の卒業生には感謝申し上げます。この情報も工化

会ホームページに写真付きで投稿しております。また、ホームページでは、卒業生からのご連絡についても多数いただいておりますので、会員の皆様におかれましても、情報収集や情報提供の場としてご活用いただければと思います。このホームページの立ち上げに際して、学内および学外の庶務委員の方々にご尽力いただき、誠にありがとうございます。会を代表して御礼申し上げます。

さて、時間は遡りますが、令和4年度4月に学科主催の1年生向けガイダンスに参加させていただき、工化会会長として挨拶した後に、庶務委員からも工化会についてご紹介させて頂きました。この際に、かねてより準備しておりました、工化会の名前が入った入学記念品(保護メガネ)を学生会員である一年生に贈呈しました。学生実験などでご使用いただき、ご自身の目を保護していただければと思います。ガイダンスの後半では、一部の学生と懇談する時間を頂き、学生生活の過ごし方や卒業してからの社会活動などについてお話しさせていただきました。特に、『学内では先生を避けて通るのではなく、先生方に分からないことなどを積極的に教わり・相談に行くことが大切で、先生の方々は歓迎して受け入れて頂けるはずです。追加の授業料は請求されません!』と冗談をまじえてアドバイスさせて頂きました。私も久しぶりに、フレッシュな若者と交流をさせて頂き、エネルギーを頂きました。

令和5年度の工化会の活動ですが、コロナの状況が幾分落ち着きを見せ始めており、学生達もすべて対面での授業を開始すると聞いております。このような環境下で、学内で総会を開催出来る可能性が見え始めています。しばらく、総会を開催していませんので、感染防止対策を行った上で、本年度は是非とも開催したいと考えております。また、飲食をしながら懇談することまで可能かどうか、現時点では不明です。4月の役員会で、状況を踏まえながら可否を決めさせていただきます。懇親会を開催出来ず、総会だけの開催となった場合、会員皆様の御理解とご協力を頂きたいと存じます。

最後になりますが、今後の工化会を更に発展させて為には、会員の皆様や各研究室の同窓会などの御協力が必要です。私もバックアップしてまいりますので、是非とも皆様のお力をお借りして進めて行きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

令和4年度 就職状況



応化進路指導委員会
委員長 仁科 淳良

令和4年度の進路指導に関するご報告をさせていただきます。令和5年2月末現在、当学科の進路未決定者は学部学生3名、大学院生0名となり学生の就職活動はほぼ順調に推移しています。

例年、進路指導の年間スケジュールで最も力を入れている行事が「夢実現プロジェクト」(夢プロ)です。夢プロは毎年12月にCSTホールで本学科学生の採用を志向する企業40社以上に対し学部3年生、大学院1年生が対象のマッチングイベントです。例年、夢プロ参加企業に実際に就職した学生数が約20名ですので、全学生の1割程度が夢プロで就職の機会を得ています。本年度は昨年と異なり、夢プロをキャリアデザインという授業の一環として行い対象学生全員の参加を求めました。また実施形態は、昨年同様WEB上で学生と企業が触れ合う機会を持つこととし、12月8日(木)の13:00~18:30にZOOMを使用してオンライン開催しました。昨年はイベントの運営を外部に委託しましたが、今年度は須川先生を主務として学科教員が独自に運営を行いました。結果、参加企業53社(昨年51社)、のべ参加学生数778名(参加学生196名が平均4社と面談) [昨年はのべ参加学生数708名(参加学生117名)が平均6社と面談]となり、昨年同様学生にとって有意義な就活イベントとなりました。開催後に集計した企業に対するアンケート結果から、昨

～アイデアを財産へ～



かもめ 特許事務所

Kamome Patent Attorneys Office

231-0005 横浜市中区本町1-7 東ビル4階
平成10年卒 弁理士 荒井 滋人
info@kamomepat.com TEL: 045-319-4466

年度同様ほとんどの企業が WEB 開催に好意的で、来年も引き続き参加したいという企業が複数見受けられ、結果的には今年も成功裏に終了することができました。

一方、2月時点で当大学院に進学する学生は35名(昨年度39名)となっており昨年度と比較して減少となりました。難関理系大学の大学院進学率は軒並み70~90%ですので、就職率を確保するとともに、大学院への進学率を今以上に高めることが進路指導担当の重要な使命となります。また、他学の大学院に進学する学生が6名おり、当学科の大学院の魅力を発信していく必要があります。次年度は就職サポートとともに例年以上に大学院進学を啓発する企画を実施する所存です。

来年度(令和6年採用)の就職活動は昨年と同じように3月に解禁され、内定は6月以降に出されることが暗黙のルールですが、年を追うごとに前年度よりも早くインターンシップを開催するとともに内定を出している企業が増えているという情報があり、学生は状況に応じて柔軟に対応する必要があります。私は今年度で進路指導委員を退任いたしますが、工化会の皆様におかれましては、引き続きご所属の企業に1人でも多くの学生を受け入れていただける等のご協力をお願いできますと幸いです。



PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台1-603-29
TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界シェアトップレベルを支えています

昭和53年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤 豊史

越智健二名誉教授が永眠されました



工化会ならびに留和会(化学工学研究室の卒業生の会)の会員の皆様に悲しいお知らせをしなければなりません。化学工学研究室の2代目の教授であり、日本大学名誉教授の越智健二先生が、昨年、令和4年11月13日に永眠されました。皆様とともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。

さて越智先生は平成18(2006)年3月31日に本学を退職されましたが、在職中、研究・教育指導や、学術研究に熱心に取り組み、学協会での諸活動にも尽力されるとともに、工化会でも、長年役員を務められ、平成8(1996)年度から平成10(1998)年度と、平成14(2002)年度から平成22(2010)年度には副会長を、近年は顧問として、工化会のさまざまな活動や発展に多大な貢献をされました。

中でも特筆すべきことは、平成20(2008)年に学科創設70周年の記念事業として行われた祝賀会の開催(6月7日アルカディア市ヶ谷にて)、記念誌(日本大学理工学部物質応用化学科70年の歩み)の発行(12月発行)、70周年記念募金の募集と70周年記念基金の設立と運用(80周年までの10年間に基金を原資とした奨学金等の給付を実施)において、各事業を完遂するために立ち上げられた70周年記念会の会長を越智先生が務められたことです。すべての事業が成功を収めたわけですが、この成功は先生のご尽力の賜物であり、改めて名誉会長として越智先生に敬意を表したいと思います。

また、越智先生は工化会の上部組織である理工学部校友会でも常任幹事や顧問として活躍され、平成21(2009)年にはその功績が認められ校友会から個人表彰されました。

最後に、令和4(2022)年は化学工研究室の創設75周年の年に当たり、周年事業として、75周年の記念会を開催すべきところでしたが、コロナ禍のため中止と致しました。そこで、本年の適切な時期に「越智先生のお別れの会」も兼ねて、留和会の75周年記念会を開催したいと思います。化学工学研究室の卒業生の皆様には、是非、この記念会にご参加いただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。

工化会名誉会長、化学工学研究室教授 栗原清文

工化会賞受賞者の声

令和4年度 80周年記念 奨学生支援

無機材料化学研究室所属 成澤瑛紀
(令和5年卒)

この度、工化会より80周年記念奨学生支援の奨学金を戴くことになりました。関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。大学院進学後には、減圧下における炭酸カルシウムの脱炭酸についての研究を進める予定です。みなさまからの支援に答えるべく、日々精進して参ります。

令和4年度 80周年記念 奨励賞

環境微生物学研究室所属 笹井 海
(令和5年修士卒)

危険物甲種の試験に合格し、工化会より奨励賞を賜りました。4月からは社会人となりますが、日本大学で学んだことを生かし、しっかりと働いて参ります。関係者のみなさまありがとうございました。

令和4年度 学術文化部門

化学工学研究室所属 谷口真一
(令和5年修士卒)

私は令和4年度化学工学会新潟大会において学生賞を授与され、それに伴い工化会賞を戴きました。誠にありがとうございます。4月から社会人として大成建設(株)で働き始めます。さらに精進し、工化会に恩返し出来ればと思っております。

令和4年度 短期大学部門

短期大学部ものづくり・サイエンス総合学科 石原彩圭
(令和5年卒)

この度工化会賞を戴きまして、誠にありがとうございます。4月に物質応用化学科へ編入学します。本格的な実験や研究ができる事が今から楽しみです。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

令和 4 年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞受賞などの活躍をご紹介します。(集計期間：令和 4 年 2 月～令和 5 年 2 月)

【教員の部】

- ・松田弘幸 (化工) The 12th International Conference on Supercritical Fluids (Supergreen 2022), Best Oral Presentation Award

【学生の部】

- ・本間浩輝 (超分子) 第 73 回コロイドおよび界面化学討論会、ポスター賞
- ・本多丈太郎 (超分子) 第 41 回固体・表面光化学討論会、若手優秀講演賞
- ・谷口真一 (化工) 化学工学会新潟大会、学生特別賞
- ・吉田 匠 (有材) 理工学部学術講演会、優秀発表賞
- ・高野弦貴 (有材) 理工学部学術講演会、優秀発表賞

【令和 4 年度工化会賞受賞者】

- ・80 周年記念 奨学生支援
成澤瑛紀
- ・80 周年記念 奨励賞
笹井 海、小林怜央、宮島敦也、中山大輝、堀 叶佑、伊藤志帆、高柳飛翔、松田 潤、劉 嘉楽、澤木 隼、伊藤仁晏
- ・学術文化部門
谷口真一
- ・特別賞
村本 秀斗 (早期卒業)
- ・ポスター賞 (最優秀発表賞)
小野里梓、上川路彩花、平田桃子、廣澤寛英
- ・ポスター賞 (優秀発表賞)
伊藤仁晏、伊藤匡哉、金山永久、坂本 杏、鈴木櫻子、滝本海斗、田所秀平、樋口颯亮、平山正二郎、山西理都子
- ・ポスター賞 (発表賞)
一色竜也、伊藤志帆、小湊元樹、是村匡人、佐藤 賢、鈴木拓磨、鈴木真乃、高山瑠奈、瀧澤悠隼、長久保英治、中村美風、丹羽 茅、野崎一慎、保科陸翔、本田 響
- ・短期大学部門
石原彩圭
- ・短期大学部卒業研究発表部門 (優秀発表賞)
藤岡美都

OB・OGからのお便り紹介

S56年卒のKUさまから、住所変更の連絡と共に在校生へのエールを込めたお便りを戴きましたのでここに紹介させていただきます。

母校卒業以来、早くも半世紀に近い月日が流れました。化学品業界で社会人として働くなか、心の中に常にあったのは、若きエンジニアの歌詞でした。本当に良い歌詞で、モノ作りで社会貢献するという気概を鼓舞してくれましたが、反面、利益追求の企業基盤の中では、理想論として叩かれることも多々ありました。残念ながら、モノが満ち足りて潤沢に溢れる中で、需要も供給も不便さを忘れ去り、モノを大切にすることやモノ作りする技術者の良心というモノが、薄れてしまったり欠落してしまったりしたのかもしれない。

昨今の学生諸君は、若きエンジニアの歌詞に、何を感じとるのでしょうね？モノづくりの魂を大切にしてほしいなあと思います。同時に、マテリアル・サイクルとかマテリアル・ライフという事に意識を向け、サステイナブルな社会に貢献する…という意識とか気概とかを、大切に育て欲しい、終生持ち続けて欲しいと切に願います。利益追求型の企業内では叩かれる事も多々有るうかと思いますが、青いと言われようが理想論と言われようが、誹謗中傷にめげる事無く、モノ作りに込める思いを大切に続けて欲しいと思います。後輩諸君の活躍に期待しています。

職場が2号館に近かったので、数年前に工化出身の職場の後輩と2号館を訪れたおりに、偶然櫻川先生にお会いしました。更にその数年前に訪ねた時には、澤口先生にもお会いしました。一瞬で青春時代の日々が蘇り、正直とても懐かしかったです。蛇足ですが、学友とはいまだに連絡を取り合い、みな息災である事を喜びあっています。良い青春の時間を過ごせた事に感謝です。

(S56年卒 KU)

若きエンジニア 3番：堀内敬三（作詞・作曲）

永遠の光りを 現世に與うべく
限りなき奉仕と 愛の心もて
新たに幸ある世界を築く
わが腕に栄えあり
若きエンジニア



(日本大学理工学部校友会ホームページより引用)

<https://www.koyukai-cst-nu.jp/engi1.html>

工化会ホームページの紹介

工化会ホームページを令和4年9月30日に開設いたしました。パソコン・スマートフォンのいずれにも対応しています。

URL: <https://koukakai.org/>

日 大 工 化 会 検 索



工化会に関連する「お知らせ」を随時更新しております。スマホ版の画面をここに掲載し、説明させていただきます。



お知らせ



令和5年度通常総会について

2022-12-22

令和5年5月20日(土) 15時から開催します。

コロナ禍で通常総会・懇親会が開催されるかどうかなど会員の皆さまに情報をお伝えする場がなく、はがきでのお知らせは発送時期と回数に制限があり、ご不便をおかけしていましたが、ホームページから活動状況をお伝えできるようになりました。活用していただけると幸いです。

これまで電話あるいは郵便での連絡をお願いしてありました住所変更がホームページからできるようになりました。発行済の「工化時報」をご覧くださいことができます。

工化会について

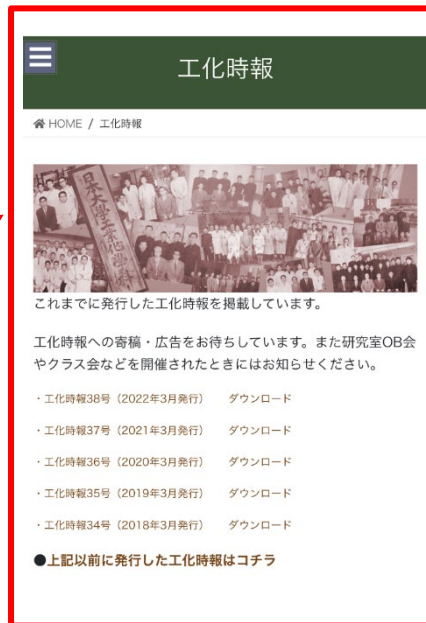
活動

総会

工化時報

会費・寄付

タップ



現在第20号以降が閲覧可能となっており、カラー化以前の工化時報で写真の一部がカラーでご覧いただけます。また、令和5年8月には昭和34年3月に発行された「工化時報」復刊1号から第19号までと学科創設50周年記念で発行された「50年の歩み」を掲載予定です。是非ご覧ください。

ホームページの活用についてご意見がありましたら「お問合わせ」からお寄せください。

(庶務委員会)

物質応用化学科広報動画

各種SNSで公開しています。ぜひご視聴ください。



左から

Twitter

Facebook

Instagram

新任紹介

有機合成化学研究室
助手 早川 麻美子



こんにちは。令和 4 年 4 月付で助手に着任いたしました早川麻美子と申します。私は物質応用化学科を卒業後、平成 27 年度より 3 年間助手を勤めた後、令和元年に博士後期課程に進学しました。この期間はちょうど新型コロナウイルス感染症が広がり、想像していた研究生活ではなく一層不安と焦りの 3 年間となりました。世界が大きく変わり、大学の現場も変化・アップデートが求められているということを感じておりました。今年度改めて学部 2 年生の専門化学実験を担当しましたが、コロナ前とはいろんなことが変わり、様々な変化についていくのがやっとでした。今後は、変化する社会・大学の中で研究者、教育者として何ができるのかを考え、物質応用化学科のためにフレキシブルに行動していける人でありたい思っております。研究では有機合成化学研究室に所属し、現在は新規有機化合物の合成や反応経路の開発、光を用いた有機合成プロセスの研究に取り組んでおります。

工化会の皆様、今後とも何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「ゆく人、くる人」

1) 退職される助手・臨時職員の皆様

- ・中山 麗さん(無機材料化学研究室所属、専門：無機/有機複合材料) 2023 年 3 月退職されます
- ・東 翔子さん(環境微生物学研究室所属、専門：酵素結晶化、有機金属化学) 2023 年 3 月退職されます
- ・分部美緒さん(材料創造研究センター所属、専門：フーリエ変換核磁気共鳴装置(FT-NMR)など) 2023 年 3 月退職されます
- ・富岡仁美さん(短期大学部ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野) 2023 年 3 月退職されます

2) 臨時職員の同窓の方々を紹介します！

<短期大学部ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野事務室>

- ・榮田結衣さん

退任のごあいさつ

生物資源化学研究室
教授 仁科 淳良



10年前に当学科からの教員の公募に応募し、自分では全く予想外の採用となりました。これまで私立大学に関わりがなかったため赴任当初は大きな不安がありましたが、教員の皆様のご厚意により何とか大過なく職務を全うすることができました。

最初の2年間は研究室内で全国放送された規模の爆発が起こり、その後別の理由で留学生が措置入院するといった辛い目に合いましたが、3年目以降はほぼ順調に研究室を運営できたと考えています。もともと食品化学、食品工学が専門でしたのでケミストとしての資質が不足しており、当学科と自分が最後までミスマッチであった点は少し悔やまれます。

これまで、民間企業、公設試験機関(公務員)、短大で研究や教育に従事してきましたが、いずれも、我々が日常利用するNMRやSciFinderが使用できる環境ではありませんでした。当学科は自分にとって初めて研究環境が整った機関であり、この10年間の研究成果は決して満足できるものではありませんでしたが思う存分研究を行うことができました。

上記のように種々の環境に身を置いてきましたので当学科を今以上に良くすることができたのかもしれませんが、こちらはほとんど成果ができませんでした。

今後は地方の小さな私立大学に専任教員として採用されたため、しばらくの間は教員生活を継続することになります。分析機器や情報収集の面で研究環境が現状よりも悪くなります。もしよろしければこれからも良好な関係を維持しつつ物質応用化学科の皆様のご指導を賜ることができれば幸いです。



令和 4 年度 広報活動

今年度は昨年度と同様、対面形式での実施を重視した広報活動を行うことができました。特に、8 月 5 日および 6 日に船橋校舎で実施したオープンキャンパスでは、学科模擬講義を含め、2 日間で 1,314 名という例年の来場者を大きく超える高校生や親御様に物質応用化学科の展示へご参加いただくことができました。

今年の学科展示トピックスは昨年度の「持続可能な開発目標：SDGs」に加え、実験講義として行う「専門化学実験」を中心とした実験技術の紹介です。高校時とは異なり、実際に手を使って行う実験量の多さと論理的な思考力が培えるカリキュラムを紹介しました。

今年の広報活動では、学部生および大学院生の活躍が目立ちました。この数年間は学生に参加いただくことが難しい状況でしたが、今年度は多くの学生が参加し、大学生活や院生生活の魅力、アルバイト・サークルなどの課外活動の実態など、高校生や親御様からの質問に答える様子が数多く見られました。参加した方々からも、非常に満足したとのお言葉をいただきました。



図 1. オープンキャンパスでの学部生・大学院生の活躍

さらに大学での学びに興味・関心を持ってもらうため、2 つの内容の模擬講義を実施しました。1 つ目は、高分子工学研究室の伊掛浩輝先生による【美容を化学する—美容処理による毛髪の内部構造変化とその効果—】、2 つ目は、生物資源化学研究室的の浮谷基彦先生による【生物が作る分子と薬の関係】です。100 人ほど入る教室が埋まるほど、多くの方に受講いただき、質問も多数寄せられました。



図 2. オープンキャンパスでの学科模擬講義風景

令和4年度一日体験化学教室

広報委員会報告

令和4年7月24日に物質応用化学科2号館にて、一日体験化学教室を執り行いました。コロナ禍のため2019年以来3年ぶりの開催となりましたが、多くの高校生から申し込みを頂き、当日は84名の参加となりました。実験には本学科の大学生・大学院生23名と教員が参加し、総勢100名を超える規模で久しぶりに活気のある一日体験化学実験を開催することができました。材料化学分野、環境化学分野、生命化学分野の11テーマに分かれて実験を行い、「病気を治す化学—医薬品の合成—」では、湿布薬の主成分であるサリチル酸メチルの合成、「細胞膜をつくろう」ではリン脂質で細胞膜と同様のリボソームを形成する実験やハンドクリームを体験してもらいました。また、その後の学科内の研究室、施設・設備見学会では、様々な研究室と材料創造研究センターの大型装置を中心に見学してもらいました。話を聞いてみると、授業等で実験を経験してきた高校生は少ないようで、実験も見学にも真剣に取り組んでいる様子が伺えました。実施後の高校生からのアンケートでは、「高校では体験できない実験を体験できてうれしい」、「先生と学生が楽しく実験を教えてくれたので楽しかった」などと回答してくれていたのが印象的でした。

今後とも高校生が“化学”に触れる機会を積極的に増やしていく様々な活動を続けていきたいと考えています。ご支援誠にありがとうございました。

実験体験の様子



一日体験化学教室の
説明時の様子

令和4年度工化会事業報告

令和4年度工化会通常総会は、令和4年7月2日(土)15時からの開催を計画しましたが、令和4年4月23日(土)15時からの令和4年度第1回工化会役員会(駿河台校舎245会議室+オンライン会議での開催)で通常総会の開催について審議し、感染拡大が収束せず大学構内への入構制限が継続していることと出席者の安全を考慮し中止を決定いたしました。「役員会において総会の開催が困難と認めた場合に限り、役員会をもって総会にかえることができる。」という工化会会則の第10条に基づき、令和4年度第1回役員会で、庶務・会員・会報各委員会の令和3年度事業報告案、会計決算報告案および監査報告ならびに令和4年度事業計画案および会計予算案、役員の一部改選案についての審議を行い、これらを承認しました。また、工化記念基金委員会の事業報告・事業計画、80周年記念基金の決算報告・監査報告・予算報告を行いました。令和5年度理工学部校友会役員選出のために令和4年12月10日(土)15時から第2回役員会を駿河台校舎245会議室+オンライン会議で開催し審議いたしました。

令和4年度事業として、これまで多くの要望がありました工化会ホームページの開設と新規事業として新入生への記念品贈呈、および例年通りに学科主催行事の後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。

工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計33名には、3月25日(金)に大学院・学部・短大における学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。また、本学科の創設80周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(大学院博士前期課程進学予定の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支援は該当者なし、奨学生支援は1名、奨励賞については大学院1名・学部10名(短大該当者なし)に対して支援・授与が行われました。

令和4年度の工化会予算についてですが、本会では予算を経常会計予算と特別会計予算の2種類を編成しており、令和4年度経常会計予算は総額646.1万円で、その内訳は学生支援事業費が54.5万円、各種講演会・行事支援事業費として64.1万円、卒業生支援事業費は159.1万円、その他10.0万円、次年度繰越金が348.4万円であり、特別会計予算は総額742.6万円で、内訳は卒業生支援事業費に161.1万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として5.0万円、国際交流支援に50.0万円、次年度繰越金として526.5万円計上しています。

なお令和4年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

令和4年度の工化会主催事業ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

- ① 4月11日(月)
工化時報第38号 10,810通発送。
- ② 4月16日(土)
学科新入生オリエンテーションで新入生への保護メガネ贈呈。
- ③ 4月19日(火)
専門化学実験Ⅰで2年生への保護メガネ贈呈(令和4年度のみ)。
- ④ 4月23日(土) 15:00~16:45
第1回役員会：役員66名出席(内委任状16名)。
- ⑤ 6月12日(日)
駿河台入試フォーラム2022：対面では172名、オンラインでは3名の高校生が参加。
- ⑥ 6月19日(日)
付属高校生のためのオープンカレッジ2022：付属高校生186名が来場。オンラインでは4名が参加。
- ⑦ 7月2日(土) 15:00~
通常総会：情勢を考慮し第1回役員会で開催中止を決定。
- ⑧ 7月24日(日)
令和4年度日本大学理工学部一日体験化学教室：高校生84名が参加。
- ⑨ 8月5日(金)、6日(土)
CSTオープンキャンパス：1日目は676名、2日目は638名、合計1,314名が参加。
- ⑩ 10月30日(日)
短大ものづくり&サイエンススクール2022：情勢を考慮し開催中止。
- ⑪ 10月30日(日)
船橋キャンパスウォッチング：本年度より理工学部一括開催。
- ⑫ 12月10日(土) 15:00~16:00
第2回役員会：役員66名出席(内委任状30名)。
- ⑬ 12月8日(木) 13:00~18:30
2022年度夢実現プロジェクト：企業53、のべ参加学生778名。
※Zoomを利用したオンライン開催
- ⑭ 1月18日(水) 15:00~17:00
講演会「OBによる現役学生のための就活セミナー」：学生対面24名、ウェブ7名が参加。※講義室での対面とウェブ併用での開催。
- ⑮ 2月4日(土) 15:00~16:40
工化記念基金評価部会：委員18名出席(内委任状3名)。
- ⑯ 2月19日(日)、23日(木)、26日(日)
第16回合格者相談会：19日(日)対面：5組11名、23日(木)オンライン：1組1名、26日(日)対面：7組16名が参加。
- ⑰ 3月25日(土)
令和4年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野学位記伝達式。
- ⑱ 3月25日(土)
工化時報第39号13,500部発行。

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿 (令和5年2月9日現在)

昭和19年卒 脇 幹夫 日暮 忠弘	高木 弦 小林 麗 高橋 一正	原 幹夫 町田 収 渡邊 高章	荒谷 作松 長嶋 潜 白石 益郎	藤池 誠治 宮城 晃 木村 勲
昭和20年卒 杉浦 銀蔵	横山 富雄 石塚 和三 柿澤 正彦	倉形 邦英 小峰 光弘 須藤 隆司	藤野 裕 秋本 幹夫 石川 和正	木村 崇祐 沢田 金吾 嶋田 晋廣
昭和21年卒 石川 幸一 齊藤 光平	網島 康晴 田畑 調友 矢野 弘子	丸山 長資 島田 洋子	梅原 達朗 神谷 中 亀村 轟	館 敏夫 彦田 一夫 重田 勲次
昭和22年卒 大川 襄治	昭和32年卒 阿久津 芳彦 網代 良太郎	昭和36年卒 石井 照明 宇賀治 正名	渡辺 久和 北本 義征 児玉 義宏	眞下 清 高桑 豊 玉應 亨三
昭和23年卒 伊藤 讓	田中 昭男 竹原 晃	小川 昌太郎 越智 健二 飯戸 斌	斎藤 伸之 齊藤 守罔 鈴木 庸一	昭和42年卒 赤坂 洋輔 今田 雅躬
昭和25年卒 池田 富三 西田 正雄 吉岡 典照	東海林 正 高木 孝 宮川 了一	木村 繁夫 佐藤 進 斎藤 博	斎藤 守罔 鈴木 庸一 瀬尾 宏	岡見 宏道 鈴木 啓輔 鈴木 健之
昭和26年卒 吉田 耕一 鈴木 信夫 稲垣 正 垣内 宏	依田 恵市 池薫 敬宜 笹原 孝	炭田 幸宏 高柳 裕臣 村田 敏弘	武田 幸久 奈良木 亨丞 中澤 甫	鈴木 勝己 中井 忠男 豊田 文江
昭和27年卒 柏木 治彦 外山 研次 近藤 住吉	加賀 勘之助 柏崎 敏郎 熊谷 祐一	吉田 昌弘 渡辺 寿義 佐藤 貞男	中田 博 野口 文雄 原 襄輔	長谷川 元保 古阪 一昭 渡部 高尚
昭和28年卒 橋 敬治 東 昭 石田 宏 高田 芳行	敬治 敬治 齋藤 二郎 中島 和紀	野村 友次 中村 紀史 桔梗 隆 小串 照宗	堀 是治 田幡 安郎 山崎 恭弘	加藤 秀也 佐藤 秀也 田中 潤一
昭和29年卒 佐藤 正巳 村上 全司 小林 永司	昭和33年卒 加賀 勘之助 大久保 勝弘	伊藤 成利 奥山 正之 梶山 秀矩	香山 武夫 菊池 靖彦 北村 隆	山崎 博 浅井 保雄 海上 幸三
昭和30年卒 鈴木 一成 田村 佐重 仁禮 誠二	昭和34年卒 清水 勝弘 加藤 嘉之	齋藤 一郎 清水 大三 芝田 研爾	小屋原 英雄 鈴木 良治 田中 誠悦	北村 正孝 村岡 研一 梅北 司
昭和31年卒 石田 壽文 幡野 隆 堀 武 吉川 和夫	藤森 信正 松浦 豊紀 山谷 保二	津崎 信隆 長谷川 修一 丸林 功	高松 武生 橋本 信之 富士 光男	田中 精二 佐藤 宣昭 進藤 清利
昭和32年卒 井上 秀雄 嶋田 稔 寺島 昌訓	横川 徹也 栗原 孝夫 昆野 澄夫	宮沢 武次 石岡 龍右 石渡 義夫	昭和40年卒 稲葉 清彦 上田 輝世	安藤 純一 石井 利男 石山 隆
昭和33年卒 長山 勝政 八田 肇 横田 一郎	昭和35年卒 安達 昭郎 青木 滋夫	磯崎 昭徳 神保 進 長田 守一	牛山 惠次 沖本 武且 小林 高志	井上 正宣 大橋 徹夫 北島 浩平
昭和34年卒 米山 廣保 高橋 久雄 浅川 和昭	青木 弘 安藤 成昭 石原 義弘	長友 良久 原 周二 井野 二陸	佐藤 瑞雄 土田 紘一 飯野 宏治	桜井 豊彦 新藤 温之 末延 敦
昭和35年卒 綾野 怜 金井 孝道 古川 新	石原 啓也 門倉 利夫 黒木 妙子	昭和38年卒 深井 英世 稲垣 甫	高橋 志郎 武井 秀彦 高間 伸一	田中 秀之 花井 順一 八幡 勝治
昭和36年卒 植竹 和也 近藤 練太郎	金澤 成光 河合 哲次 小林 隆夫	梅田 高生 大野 維夫 大橋 隆	丹野 隆善 西脇 鉄雄 幡野 匡彦	小栗 喜代治 萩原 喜代治 昭和44年卒
昭和37年卒 青木 直三郎 伊藤 博国 神戸 徳蔵	昭和39年卒 須永 晋 瀧澤 文男	永田 正巳 西山 孝彦 長谷川 實	寺山 洋子 昭和40年卒 稲葉 清彦	松村 清利 昭和44年卒 安藤 純一
昭和38年卒 小松原 彬 田中 宏之	昭和41年卒 須永 晋 瀧澤 文男	原 章 渡部 長幸 原 章	飯原 打越 有田 喜一 昭和41年卒	石井 利男 井上 隆 大橋 正宣
			石毛 哲男 塚田 悦造 中澤 豊	北島 浩平 新藤 豊彦 末延 敦 田中 秀之 花井 順一 八幡 勝治 小栗 喜代治 萩原 喜代治 昭和45年卒 小林 満 篠崎 勝彦

平塚 良一	南 茂樹	木村 昌広	森田 孝節	平成13年卒
宮内 和司	昭 and 50年卒	波岡 宣彦	吉村 美恵子	怡土 良信
宮川 晃一	上田 賢二	昭 and 56年卒	中道 幹芳	小島 正浩
望月 昭宏	上條 治夫	池田 実	平成元年卒	藤田 尚之
森川 美次	小菅 信博	今野 直哉	磯崎 誠也	平成14年卒
森崎 正美	汐澤 日出夫	後藤 真一	木方 真理子	角田 雄亮
加村 尚喜	鈴木 隆	坂牧 勝也	黒田 美和子	横田 美紗子
小熊 三郎	野原 正男	熊谷 一弘	丸山 浩二	吉川 賢治
佐藤 宗衛	服部 信和	植松 烈平	丸山 浩司	藤代 昭子
瀬戸 博	中野 功	大沼 明	佐野 伸一	平成15年卒
寺田 高德	末森 博文	三橋 昭男	和田 香織	堀川 達哉
昭 and 46年卒	昭 and 51年卒	有川 俊一	平成2年卒	平成16年卒
岩間 幸雄	内野 好夫	木屋 幸蔵	石川 恵子	石井 完
神崎 良一	重盛 正男	昭 and 57年卒	小川 貴子	石川 英章
川島 英郎	馬場 務	井上 みどり	上條 潤	平成17年卒
菊田 茂	三井 正二	小暮 勝彦	平成3年卒	赤澤 寛行
小谷 将彦	嶋田 順一	小梶 幸夫	大山 直人	平成19年卒
齋藤 政久	塚本 正雄	中村 明裕	川野辺 晃生	伊藤 拓哉
重衛 鈴木	前田 勉	久松 美樹	竹内 秀光	平成20年卒
吉広 邦夫	昭 and 52年卒	三根 郁夫	村原 伸	小出 優一郎
丹野 幸久	大窪 峰裕	梅田 崇一	赤嶺 直美	平成21年卒
三宅 久利	栗村 嘉明	内田 陽子	高田 昌子	佐藤 克哉
飯田 隆	荻原 謙二	山浦 信介	平成4年卒	吉田 隼人
昭 and 47年卒	齊藤 孝	佐藤 慎一	宮崎 裕子	平成22年卒
駒屋 伸雄	志田 邦昭	未澤 二郎	桐山 崇一	掛川 瞳
齋藤 菊夫	瀬戸 秀明	昭 and 58年卒	佐藤 裕司	高木 晃一
丹藤 秀博	深澤 豊史	岩崎 好高	林 由浩	平成23年卒
鶴 達郎	古越 宣正	飯田 隆久	松田 和夫	春日 龍史
何木 正芳	古橋 雄二	栗原 清文	萩原 洋子	篠田 賢
藤本 孝人	小林 洋明	小林 精一	関根 智一	鈴木 利彦
森 伸一	山田 勝彦	田村 精一	平成5年卒	平成24年卒
山口 勇	山田 忠雄	高山 利治	小泉 公志郎	中山 麗
小嶋 信男	関方 晴久	長 茂輝	鈴木 理文	平戸 祐喜
昭 and 48年卒	生方 正之	谷田貝 仁恵	米田 哲也	平成25年卒
加来 文隆	太田 政子	原川 優子	平成6年卒	近藤 駿平
権藤 善成	新国 貞幸	矢島 浩之	小池 芳暁	田村 高大
櫻川 昭雄	昭 and 53年卒	山田 美穂子	佐々木 典世	早川 麻美子
重藤 峻一	奥田 直史	谷田貝 隆	石黒 香織	松山 史典
渋谷 修	小林 康秀	久保田 博明	遠山 岳史	曾村 岳郁
瀧口 誠典	高木 英行	昭 and 59年卒	平成7年卒	平成26年卒
戸早 哲太郎	原田 哲也	小峰 昌弘	岡田 賢識	野中 裕名
中島 慎司	深津 誠	清水 繁	小林 誠一	長谷川 翔大
長谷川 一夫	堀本 清二	小嶋 千津美	奥村 佳代子	平成27年卒
平林 明夫	黒澤 錬二	昭 and 60年卒	谷合 哲行	南澤 宏湖
安岡 徹	昭 and 54年卒	太島 佐知子	平成8年卒	平成28年卒
山中 操	小笠原 幸道	石見 勝洋	土山 人一	福田 寛之
渡辺 明典	太田 延幸	満田 泰志	仁平 勉	平成30年卒
大高 由輝	小坂 佳則	本澤 正博	原野 満美子	岡野 貴洋
川津 義人	清水 尚登	高橋 宏和	加藤 太志	平成31年卒
小谷 寛	杉山 文敏	昭 and 61年卒	平成9年卒	小池 祥子
坂口 信昭	中村 真理子	片桐 正志	木田 秀一	永井 宏明
藤井 克彦	服部 洋一	那賀 恵美子	林 秀恵	令和2年卒
昭 and 49年卒	藤生 康彦	萩原 俊紀	平成10年卒	大森 直樹
青木 壮慈朗	谷藤 善美	福元 俊之	武田 誠一郎	令和3年卒
飯塚 修一	横森 英俊	小林 義幸	島村 寛人	佐伯 賢治郎
久保 隆	坂本 恵一	三原 公雄	荒井 滋人	教職員
小林 正男	鈴木 昌三	昭 and 62年卒	伊掛 浩輝	青山 忠
小茂田 英男	野口 重雄	加藤 慎次郎	横田 昇平	大月 稜
佐藤 憲一	坂本 信子	幾留 孝司	眞智 絹代	西村 克史
佐藤 哲	昭 and 55年卒	清水 恵樹	平成11年卒	松下 祥子
佐藤 芳明	小笠原 一恵	根本 俊寛	浅野 賢一	
澤口 孝志	小笠原 守人	昭 and 63年卒	樋口 孝夫	
末木 康行	金子 堅司	石井 睦子	平野 壮哉	
湯川 吉美	多田 康男	乙川 千博	松田 弘幸	566名
野澤 美文	戸塚 宏	歳森 幹生	平成12年卒	
元木 英二	松島 昇	三井 宏	山崎 章	
山崎 純一	丸山 博秀	村山 竜一	伊掛 美里	
山中 光徳	森 弘通	中西 剛	亀田 博之	

編集後記

「教育とは、機械を造ることではなく、人間を創ることである。」とはジャン・ジャック・ルソーの言葉だが、ただ知識を覚え込ませるだけが教育ではないということは、昔から繰り返し言われてきたことであった。知識を覚えるだけなら人間がコンピュータに敵うはずはなく、それでいいなら AI は人間より格段に優れていることになるが、そうではないところを見ると、やはりルソーの言は正しいのだろう。にもかかわらず、成果が見えやすいこともあって、ともすれば知識を暗記させるだけの安易な授業に陥ってしまう。特にオンライン授業は一方通行になりがちのためそれが顕著で、学生にも迷惑をかけたことと思う。新年度からは授業も大学生活もほぼコロナ前に戻ることになっている。我々も日々自戒しつつ教育にあたっていきたい。

(会報委員 昭和61年卒 萩原俊紀)

お知らせ

令和5年度の行事予定

- 5/20(土) 工化会通常総会・懇親会・ホームカミングデー
詳細は工化会ホームページにてお知らせします
- 7/23(日) 一日体験化学教室
- 8/6(日)、8/7(月) CST オープンキャンパス 2023
- 10/8(日) 理工学部ホームカミングデー (駿河台校舎)
- 11/5(日) 船橋キャンパスウォッチング

連絡先

連絡先：工化会ホームページをご覧ください

- ・住所変更に関するお問合せ

<https://koukakai.org/address/>

- ・住所変更以外のお問合せ

<https://koukakai.org/contact/>, FAX: 03-3293-7572

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 件 : 1 0 , 0 0 0 円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 赤澤寛行, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀,
米田哲也

学科ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>